

グローバル・フィランソロピーの動向と芸術支援 ———米国・英国の事例を中心に———

2014年10月7日

国際交流基金仕事研究会 発表資料

小林立明

(tatsuaki.kobayashi@gmail.com)

1. 1990年代以降の海外助成財団セクターの発展

1. 助成財団セクターの量的拡大

- 90年代以降、欧米ともに助成財団は資産、助成額共に拡大
(※これに対し、日本の助成財団は、資産額で拡大しているが、助成額は減少傾向)

2. 助成財団以外の多様な助成団体の登場・発展

- ドナー・アドバイズド・ファンド
- オンライン寄付プラットフォーム
- 市民ファンド 等

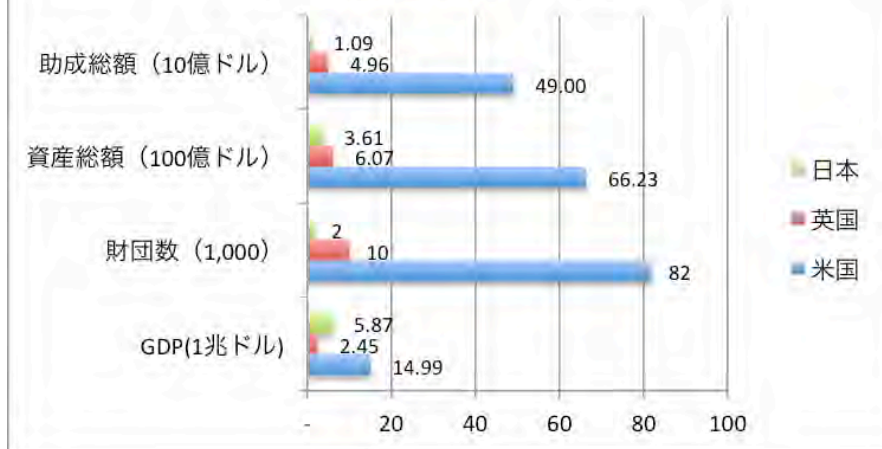
(※日本でも、特定寄附信託制度導入、市民ファンド推進連絡会設立、オンライン寄附プラットフォーム設立など同様の動き)

3. グローバル・フィランソロピーのネットワーク化と地理的拡大

- グローバル・フィランソロピー・ネットワーク形成に向けた動き
 - i. グローバル・フィランソロピー・リーダーシップ・イニシャチブ
 - ii. WINGS (Worldwide Initiatives for Grant-maker Support)
- 地理的拡大
 - i. アジア各国でフィランソロピー・セクターが発展。ナショナル・ネットワーク設立の動き
 - ii. 中東アフリカでもフィランソロピー・セクターが登場。地域ネットワーク設立の動き。
(※日本の助成財団セクターは、この中でプレゼンスを十分に示すことが出来ていない。)

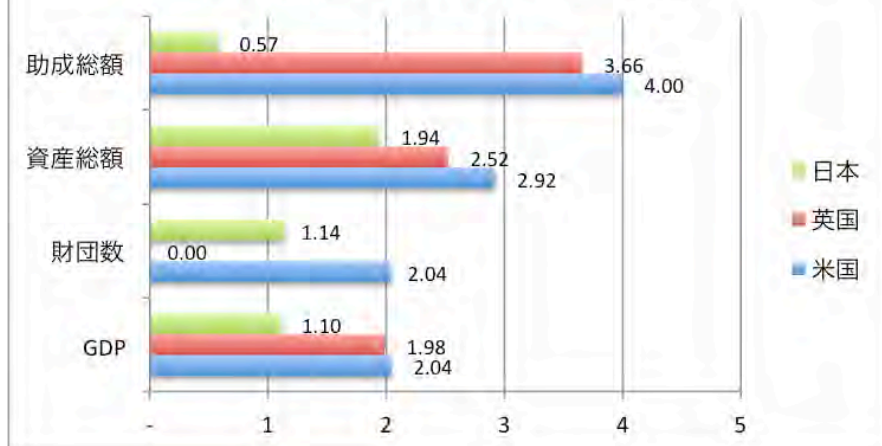
1-1. 海外における助成財団セクターの発展

日英米助成財団セクターの規模比較



- 助成総額、資産総額、財団数共に米国が圧倒的に大きい。
- 日本の助成財団セクターは、GDPで半分程度の英国と比べても小規模。
- まとまった統計はないが、欧州共同体においても、2005年時点で、95,000以上の財団が活動と推定されている。15カ国55,552財団を対象とした調査では、総資産2,370億ユーロ、総支出額460億ユーロというデータあり。
(JFC Views Nov. 2013, No. 78より)

日英米助成財団セクターの成長率比較



- 1995年から2011年にかけての助成財団セクターの成長率を比較すると、米国、英国共にGDP成長率を上回る成長を達成している。
- これに対し、日本の助成財団セクターは、財団数はほぼ横ばい、資産総額は増加しているが、助成総額は減少という状況。
(JFC Views Nov. 2013, No. 78より)

1-2. 多様な助成団体の登場・発展

例1:ドナー・アドバイズド・ファンド

- 米国における寄附信託制度の一つ。寄附者は専門機関やコミュニティ財団などの非営利団体が用意したファンドにそれぞれ口座を開設し、ここに資金を寄附する。但し、他の一般寄附や特定寄附と異なり、ドナー・アドバイズド・ファンドの利用者は、寄附金の運用先や寄附のタイミング、寄附の対象となる非営利団体を比較的柔軟に選択することが出来る。
- 従来より、コミュニティ財団を中心に利用されていたが、1990年代に入り、フィデリティなどの大手金融機関の参入が認められたため、大きく発展した。ナショナル・フィランソロピック・トラストのような全国レベルで活動する非営利のドナー・アドバイズド・ファンドも登場した。
- 財団を設立するよりも管理コストが低いこと、比較的少額の寄付から始めることが出来ることなどの理由により、近年、増加している。

寄附口座数の推移



資産総額の推移



(単位: 10億ドル)

グラント総額の推移



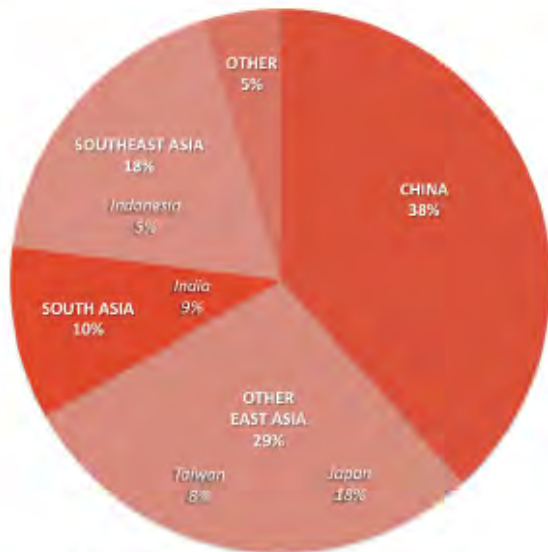
(単位: 10億ドル)

1-2. 多様な助成団体の登場・発展(続き)

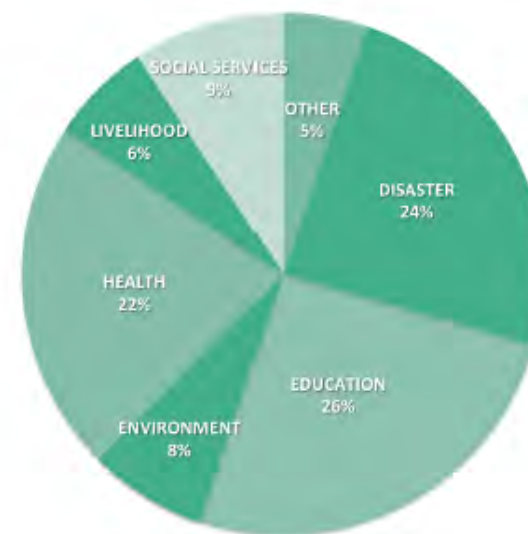
例2: Give2Asia(オンライン寄附プラットフォーム)

- オンライン上にアジア各国の非営利団体を支援するファンドやプロジェクトの情報を掲載し、それぞれに対して、企業、財団、一般等からの寄附を募るオンライン寄附プラットフォーム。2001年以来、2億3700万ドルの寄附を集めた。
- 2012年度の寄附総額は3,014.8万ドル。年初の資産総額は923.5万ドル。2013年度にはアジア24カ国を対象に、総額3,116.6万ドル、563のグラントを出した。
- 2011年の東日本大震災の際には800万ドルの寄附を集め、緊急支援、経済復興、保健医療、教育などの分野における支援を行った。

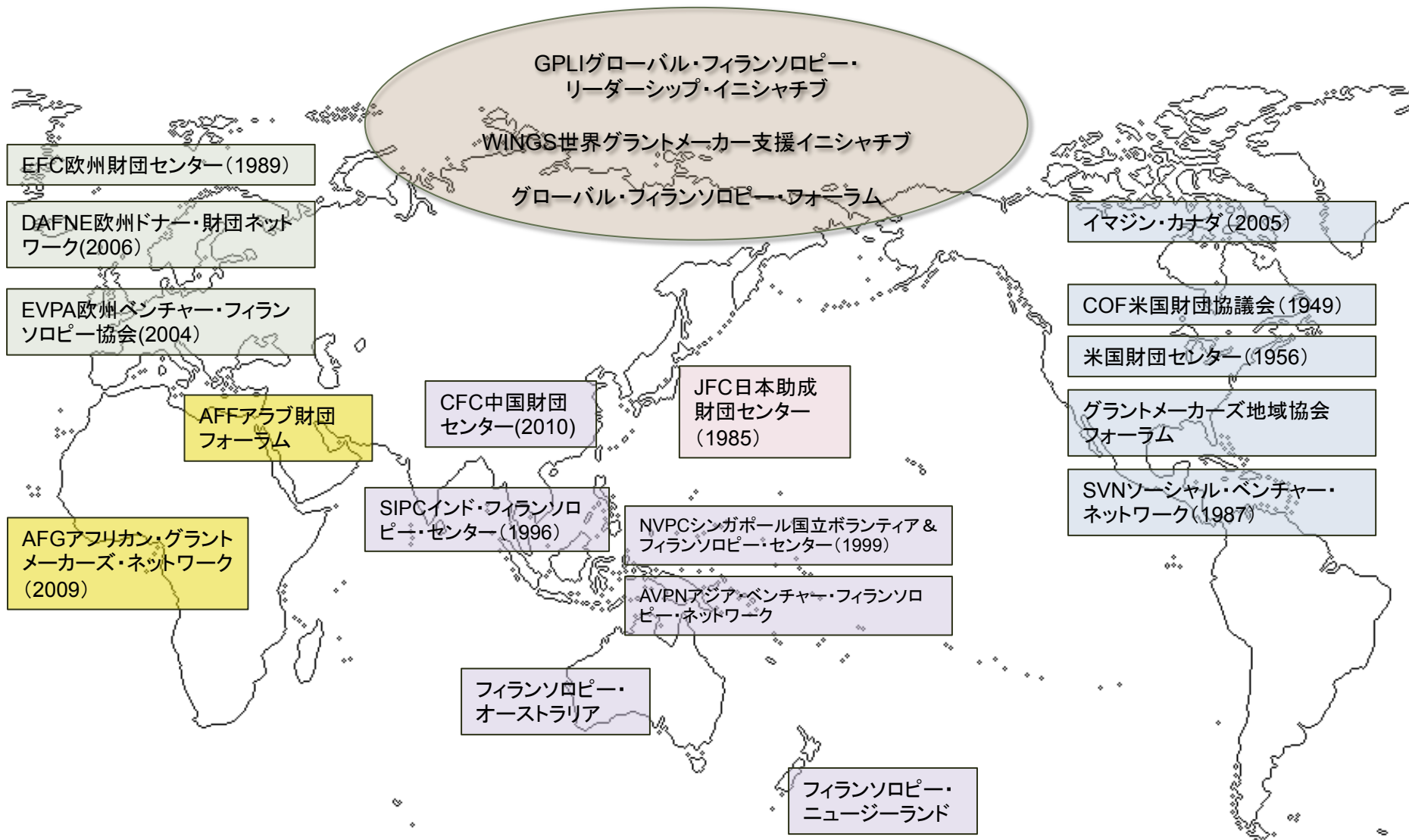
地域別グラント比率(2013年度)



分野別グラント比率(2013年度)



1-3. グローバル・フィランソロピーの発展



2. 多様に発展するグラント・メイキング手法

基本的特徴

成果・インパクト志向
 持続可能性志向
 中長期的なコミットメント
 グラントを超えた支援形態

共同ファンディング

→共同を通じた大規模支援
 →民間金融機関の取り込み

触媒型フィランソロピー

→コミュニティを巻き込んだ支援
 →アドボカシーを通じた政策形成

ベンチャー・フィランソロピー

→芸術起業支援を軸とした自立化支援
 →芸術文化団体の基盤整備支援

戦略的グラントメイキング

→共同制作、国際フェス支援
 →創造産業支援

フィランソロピー

→美術館、劇場への支援
 →フェローシップ、レジデンス

慈善(チャリティ)

→貧乏な芸術家への寄付

芸術支援に特化したクラウド・ファンディングの発展

- Kickstarter(米国) www.kickstarter.com
- ArtistShare(米国) www.artistshare.com
- PledgeMusic(米国) www.pledgemusic.com
- Pubslush(全世界) <http://pubslush.com>
- Patreon(米国) <https://www.patreon.com>
- ArtMarketCanada(カナダ) www.artmarketcanada.com
- art happens(英国) www.artfund.org/get-involved/art-happens

2-1. 主要グラント・メイキング手法の特徴

戦略的グラント・メイキング (Strategic Grant-making)

- 事業計画策定～実施～評価～事業見直しという一連のプロセスを事業実施効果の最適化という観点から体系的に整理・モデル化したもの。
- 「ロジックモデル」を核とする。

ベンチャー・フィランソロピー (Venture Philanthropy)

- 革新的なビジネス・モデルを持った団体を厳選し、一般管理費や人件費なども含めた大規模・中長期的な資金提供を通じて団体の経営基盤強化やスケール・アップを支援し、これによってより持続可能でインパクトのある事業を実現しようという手法。
- ベンチャー・キャピタルの手法を取り入れ、資金面以外での経営支援やネットワーク形成支援などを行う点に特徴がある。

触媒型フィランソロピー (Catalytic Philanthropy)

- グラント・メイキング団体が「触媒」の役割を果たすことで、異なるセクター間の協働を組織し、社会を変革することを通じて目的を達成しようという手法。グラント・メイキング団体が、資金支援以上のより積極的な役割を引き受け、多様な利害関係者を巻き込んだクロス・セクター間の協働を組織することを目指す。
- その際、セクター間で共有可能な成果達成度の測定指標設定、強力な調整機能を持った事務局の設置、アドボカシーやロビー活動、施設・人材の提供などを行う点に特徴がある。

共同ファンディング (Co-funding, Mixed-funding)

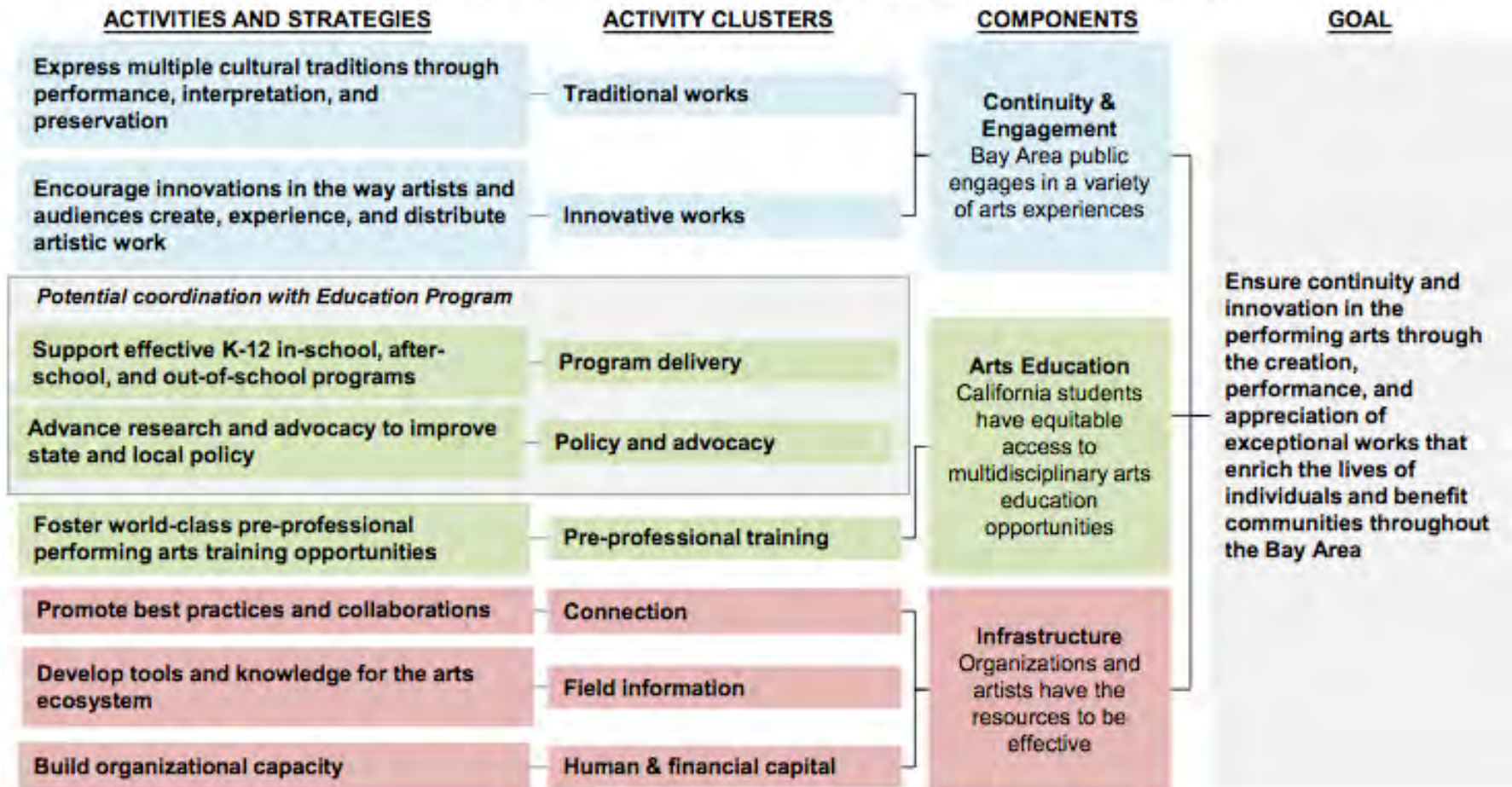
- グラント・メイキング団体が共同で資金提供を行う手法。
- 複数の財団がコンソシアムを組み、情報交換を行いながら特定の領域に共同で支援を行うものや、さらに進んで共同基金を設立し、これを通じて支援を行うものなど、様々な手法が試みられている。

2-2. 主要グラントメイキング手法の具体例

名称	プログラム概要	実施財団
サンフランシスコ湾岸地域舞台芸術支援プログラム <i>(戦略的グラントメイキング)</i>	<ul style="list-style-type: none"> サンフランシスコ湾岸地域の舞台芸術の継続と革新を目的に、舞台芸術プログラム支援(伝統&革新)、芸術教育・アドボカシー・トレーニング、組織基盤整備とインフラ整備の3つの柱を有機的に結合させた支援を実施。 	Hewlett Foundation
アーティスト支援プログラム <i>(ベンチャー・フィランソピー)</i>	<ul style="list-style-type: none"> 革新的で実験的なアーティストに対して総合的な支援を行う。支援は、通常のプロジェクト・ベースでの支援にとどまらず、プロジェクトの発展段階ごとの資金支援、ネットワーキングとこれを通じたアーティストのプロフェッショナル・デベロップメント、法律・資金計画・広報・ビジネスプランなどのコンサルティング、ローン貸与、クラウド・ファンディング支援など多様な支援を行う。 	Creative Capital
Arts Incubator of the Rockies (AIR) <i>(触媒型フィランソピー)</i>	<ul style="list-style-type: none"> ロッキー山脈以西地域のコミュニティ活性化と経済発展を、アートを軸としたクリエイティブ・エコノミーの促進を通じて達成しようというプロジェクト。アーティスト養成・支援、文化産業の育成、ネットワーク形成などを、様々なレジデンス・プログラムや教育・トレーニングプログラム、アドボカシー活動、情報共有などを通じて達成することを目指す。 	National Endowment for the Arts Americans for the Arts Emily Hall Tremain Foundation
ArtSpace <i>(共同ファンディング)</i>	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃したコミュニティ再生をアートスペースの設立を通じて実現しようというプロジェクト。主要財団の資金に金融機関の投資を加えて、スペースの設立、運営、プロジェクト支援、コンサルティングなどを行う。2013年現在で、全米33カ所にスペースを設置。 プロジェクトの運営は、ArtSpaceという中間支援団体が行う。主な業務は、スペース建設(用地取得を含む)、不動産の維持管理や芸術団体への貸し出し、およびコンサルタントサービス。 (フォード財団は、このプログラムを中東や中南米にも展開) 	Ford Foundation The Kresge Foundation The McKnight Foundation National Endowment for the Arts Minnesota State Arts Board 他

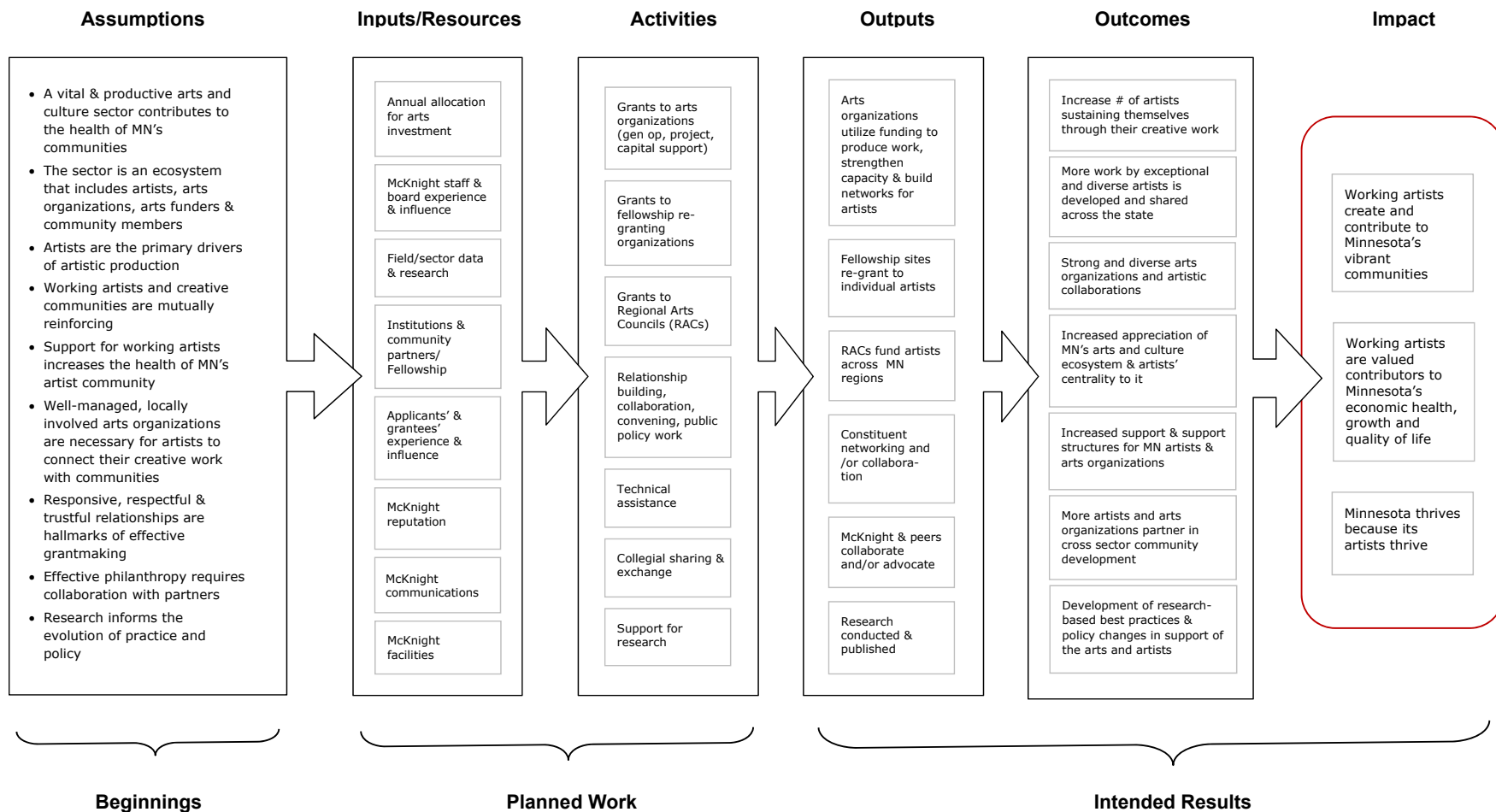
2-3.参考:ヒューレット財団のロジックモデル

HEWLETT FOUNDATION PERFORMING ARTS PROGRAM LOGIC MODEL



2-4.参考: マックナイト財団のロジックモデル

The McKnight Foundation: Arts Program Logic Model



2-5.参考: Creative Capitalの支援メニュー

Money



Initial
Award



Special
Opportunities



Infrastructure
Funds



Expansion
Funds



Project
Funds



Premiere
Funds



Alumni
Funds

Artist Retreat



80+ artists



3 days



Meetings



Conversations



Panels



Workshops &
Lectures

Artist Services



Money



Meetings



Guidance



Retreats



Service Clinics



Convenings



Regional Gatherings



Promotion



Partnerships

2-6.参考:フォード財団のアート・スペース促進プロジェクト



2-7.参考:フォード財団のアート・スペース促進プロジェクト



補論：国際文化交流における芸術支援の動向

1. 全米芸術基金

- 他団体との連携強化
 - USArtist International(ミッド・アトランティック芸術財団との共同事業)
 - US/Japan Creative Artists Program(日米友好基金との共同事業)
 - ArtsLink Residencies(CECArtsLinkとの共同事業)

2. 英国ブリティッシュ・カウンシル

- 創造経済プログラム立ち上げ
 - 創造産業という観点から英国文化を発信、および文化交流を推進
 - 2014年には、ロシア、ブラジル、ベトナム、日本、ナイジェリア、南ア、UAEで実施
 - イノベーション・ショーケース、ラボ、人材育成、経済交流、政策調査など

3. アジア欧州財団

- 創造産業プログラム
 - パブリック・フォーラムを通じた交流
 - Creative Encountersプログラムを通じた交流支援
- 交流プログラム
 - 美術館・博物館交流事業
- Culture 360.orgを通じた情報交流の推進

ご清聴ありがとうございました！

参考サイト

- ◆ フィランソロピーのフロンティア
http://japan-philanthropy-forum.net/public_html/frontier/wp/
- ◆ ジャパン・ソーシャル・イノベーション・フォーラム
<http://japan-social-innovation-forum.net>
- ◆ フィランソロピー・非営利・協働 情報ボックス
<https://www.facebook.com/InfoBoxOfPhilanthropy>